

新型インフルエンザ等対策推進会議（第 23 回）

欠席者意見

2026 年 7 月 16 日

一般社団法人 日本経済団体連合会

危機管理・社会基盤強化委員会 企画部会長

堀 幸子

本日、所要により本会議を欠席いたしますので、以下の通り、書面にて意見を申し上げます。よろしくお取り計らいのほど、お願い申し上げます。

議事（1）政府行動計画のフォローアップの結果について

- ・ 毎年度、丁寧にフォローアップがされており、心強い。対策の進捗が見られ、仮に今、2020 年の新型コロナウイルス感染症と同様のパンデミックが起きても、前進した対策を打つことができるであろうことを実感できる。関係者のご尽力を高く評価するとともに、引き続きの努力と対策の充実を求めたい。
- ・ 資料 1-2「⑦ワクチン」のマイナポータルでの接種履歴の確認等が可能なシステムの普及に期待している。たとえば風疹・はしか・帯状疱疹などのように、ワクチン接種によるのではなく、り患によって抗体がついている場合もあり、抗体検査の結果なども蓄積できれば、より適切な接種勧奨につなげられるのではないかと。母子手帳に代わるポータブルなワクチン接種・抗体記録の整備を望みたい。
- ・ 資料 1-2 の「⑩検査」の「ウイルス研修」「検査能力向上研修」「新興再興感染症研修」、資料 1-3 の「5つの横断的な視点①〈人材育成〉」の「感染症危機専門家（IDES）要請プログラム」「実地疫学専門家養成コース（FETP）」「人工呼吸器や ECMO を取り扱う医療人材を育成」「IHEAT 専門講習や感染症・IHEAT 管理者マネジメント研修等」「感染症危機管理リーダーシップ研修」などの研修について、修了者の実績を積み重ねていることは喜ばしい。一方で、こうした研修の修了、得られた能力・資格の維持、継続のためには、①研修受講、資格取得のインセンティブ、②能力や資格の維持・更新のインセンティブが重要である。

民間企業であれば、職務に有用な資格を取得した職員には「資格手当」を支給するとともに、能力や資格の維持・向上のためのフォローアップ研修等の費用を支弁するなどして、個人のキャリアアップを評価、処遇に反映するとともに、組織への貢献に役立てる。感染症の専門性の高い人材については、こうしたキャリアを適正に評価し、処遇に反映する仕組みはあるのか。たとえば一定の研修を修了した医師等に対する報奨などの工夫を検討すべきである。

議事（2）保健所業務の DX について

- 資料 3 の「感染症サーベイランスシステムによる届出状況に係る調査概要」の「結果①」では感染症指定医療機関でも感染症サーベイランスシステム（感染症 SS）を使わない届出も見られる。また、「結果④」によれば、「入力作業の負担が増える一方で、得られるメリットが少ない」「感染症 SS と電子カルテが別ネットワークであり、登録作業が煩雑である」等の指摘がある。
そこで、感染症 SS を用いた届出環境の底上げを図り、システムの利便性の向上、利用率を向上させるために、システム間の相互連携を強化し、入力の手間を省いて、現場でも効率化を実感できるものとするとともに、ユーザーへの利用方法のサポートを提供することなどを通じ、システム上の課題・実務利用上の課題の克服を図るべきである。

議事（3）国際的な動向等について

- ハンタウイルス肺症候群について、JIHS のリスク評価公表をプレスへの公表の形で行ったとあるが、この際に資料 1-1 「④情報提供・共有、リスクコミュニケーション」のリスクコミュニケーションに関する勉強会等の成果はあったのか。研修や訓練の結果がどう活かされたのか、その効果はどうであったのか。評価と今後への課題等についてお伺いしたい。

以 上